# 6月園だより

めいろうこどもえん

## ２０１５年度　年主題〈“平和”をつくる〉

**0･1･2歳児６月主題　「わくわくする」**

*月のねがい*

◎園生活に慣れ、安心して過ごす
◎保育者や身近な友だちと好きな遊びを楽しむ
◎さんびかに親しむ

**3･4･5歳児６月主題　「おもしろい」**

*月のねがい*

◎遊びや生活の中で、自分の気持ちを伝えようとする
◎身近な自然・生き物や様々な素材にふれる
◎聖書の話やさんびかに親しむ

## 今月の聖句　「わたしたちは互いに愛し合いましょう。」

Ⅰヨハネ4:7

今月のテーマ聖句はもっとも美しく、そして、もっとも重い言葉です。この原語アガペー（αγαπη）は気の合う人を好きになる愛とはちょっと違います。どちらかといえば母の愛に近い愛です。無私の愛です。この愛が人類の中に根付けば争いや戦争は起きません。

さて、パウロという1世紀の使徒は、コリント人に宛てた手紙の中で次のように書き送っています。「愛は寛容･親切。愛は人を妬まず、人に自慢せず、高慢にならない。非礼を行わず、怒らず、人の悪を批判せず、自分の利益追求をしない。愛は不正をさけ、善を求む。愛はすべてを我慢し、耐え忍ぶ。それでいて希望を失わない。これがアガペー（αγαπη）愛である。」愛の意味づけともいえる徳目ではないでしょうか。

以上のすべてが実行できなくても、まずは自分にできることから、生活の中で意識し、実行してみましょうか。　きっと、すばらしい「愛の実」を結びますよ。

前理事長　池田公榮

## ６月の行事予定

| | |
|---|---|
| ９日（火） | ６月誕生会 |
| １８日（木） | 歯科検診（13:00より） |
| ２４日（水） | 海あそび･弁当日 |
| ２７日（土） | 家族の日参観 |
| 〃 | 弁当日（2・3号） |

## ７月の行事予定

| | |
|---|---|
| ４日（土） | 夏祭り・弁当日（2.3 号） |
| ７日（火） | 七夕事業所訪問 |
| 11・12 日 | お泊まり保育（年長児） |
| １４日（火） | ７月誕生会 |
| １５日（水） | プール遊び・弁当日 |
| １７日（金） | １学期終園式(1号:午前保育) |

## ～あっという間に梅雨入り～

新年度がスタートして、2ヵ月が経ちました。こども園で、少しずつ子どもたちが自分を出し始め、こわばっていた表情が柔らかくなってきています。朝、お母さんと離れる時きも「バイバイ」が聞こえてくるようになり、嬉しく思っています。

これは、2歳児の男の子たちのお話です。朝、珍しく泣いて登園してきた二人。よく聞いてみると、一人の男の子は家で見つけたボタンを、もう一人は登園途中で買ったお茶をどうしても園に持って行きたい！ということだったようです。しばらく様子を見て、私は「ボタンもお茶も、こども園ではそっとカバンに入れておこうね。」と約束して、お母さんと別れました。二人とも不思議と、それまでのこだわりはどこへやら…すんなりと何事もなかったかのように遊びに出かけていきました。

朝の忙しい時間に限って子どもは、駄々をこねたり自分の世界に浸ってしまいます。お母さんたちもやりたいことがいっぱいあるのに！と、ヤキモキされているだろうな…と、自分もまだ小さかった頃の息子達との朝を思い出すことでした。

子どもたちは、何かふとした言葉や行動で、嘘のように気持ちが落ち着いたりするものです。こういう子どもとのやりとりが面白く、ほんとうに楽しいなと思います。普段は、なかなか余裕がなくて大変かもしれませんが、ただ「ダメ！」「できない！」ではなく、深呼吸をして言い方を変えてみたり、子どもの反応を楽しんでもらえたら、少しだけ子育ても楽になるのかなぁと思います。なかなか難しいですが…。

さて、梅雨に入ります。雨で家にいることも多くなり、モヤモヤした日々がやってきます。ずいぶん前、家で持て余している息子達が手作りカッパを身につけて、雨の中で喜んで遊んでいたことを思い出します。ちょっとした一工夫で、梅雨も大いに楽しみましょう！

森　山

## 梅雨来たりなば真夏遠からじ

園庭いっぱいに広がっていく大小様々なシャボン玉。真っ青な空の下、新緑の葉を揺らす風、驚きに満ちた子どもたちの笑い声。晴れた日の園庭で繰り広げられる子どもたちの営みは、本当に美しい絵画のようです。神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーが溢れています。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味･関心を広げていきます。その中で育っていくものが、「考える力」です。考える力を伸ばしていくためには、何よりも子どもの自発性、やりたいと思う気持ちになることが大切ではないでしょうか。指示･命令や許可を得てするのではなく、子ども自らが考えて、知恵を出し工夫するよう援助していきたいものです。そして「注意の集中力」と言われる何かに熱中できることも必要です。好きなことに時間を忘れて没頭した経験は誰にもあることでしょう。好奇心をそそられるモノやコトに出会うことによって、熱中体験を重ねていければと思います。

梅雨と言えば雨。地上の生きとし生けるものを支える水の源でもあります。植物を形成する細胞の化学反応は水を媒介として行われますが、成長に必要なあらゆる物質も、また水によって生物体の内部に運ばれます。木々に水を提供し続けるのは「根」です。雨量が多く強風の少ない地に育つ木は、そびえ立つような大木でも、たまに強風が吹くと簡単に倒れてしまうそうですが、地下水が深いところにあるような場所では、根も長く伸びていき、幹をしっかりと支えられるのです。苦しみや試練に出会った時、それを乗り越えられる力を得るのは、安易な水の補給ではなく、深く根を伸ばすための心の葛藤や克己心ではないでしょうか。

先日の奉仕作業にたくさんの参加をいただきありがとうございました。親子遠足に続いての大雨で、残念ながら屋外の作業は出来ませんでしたが、普段中々手の届かない場所をあっという間にきれいにして戴いて、誠にありがとうございました。

湿度が上がり、疲れも出てきて体長を崩しやすい時期でもあります。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝･早起き･朝ごはんで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

園　長

## 幸せになる”脳はだっこで育つ”ー強いやさしい賢い子にするスキンシップの魔法ー

山口　創　著

子どもが小さければ小さいほどスキンシップの果たす役割は大きくなりますが、なかでも出産直後から、生後一年くらいまでは親からのスキンシップがとても重要です。　出産後、早くから子どもに触れることはお母さん、お父さんにとってもよいことで、子どもに対する愛情が自然に高まります。親との愛着関係を築くのに特に重要なのが生後半年から２才ぐらいまでです。

**愛着関係とは、”特定の養育者との間に作られる心のきずな”**をいい、愛着関係が上手く築かないと、成長してからさまざまな精神的障害や問題行動が出てくることが知られています。

それだけに乳児の時期の温かなスキンシップは、子どもの発達に大きな意味と役割をもちます。

触覚の研究では、人は「**スベスベ**」「**やわらかい**」の二つの要素に対してもっとも気持ち良さを感じることが分かっています。

その特徴を２つとも兼ね備えているのが**赤ちゃんの肌**です。赤ちゃんの肌がスベスベして柔らかいのは、親から触られるため、たくさん抱っこされて愛してもらうためなのかもしれません。ですから「何をしても赤ちゃんだから分からない」と考えず、いっぱいスキンシップをして下さい。

またその反対に、「もう赤ちゃん期を過ぎたから、スキンシップするのに手遅れ」なんてことも全くありません。スキンシップが足りなかったと思ったら、何歳からでも大丈夫ですので、足りなかったものを取り戻すために、こちらからも思う存分スキンシップして下さい。

さらに、「自分こそ子どものころ、スキンシップが足りなかったのかもしれない」と気づいたお母さん、お父さんがいらっしゃるかもしれません。

けれども大人もスキンシップに手遅れはないのです。子どもと楽しく触れ合うことで、親もスキンシップの恩恵をたくさん受けることが出来るのです。

（※次回は”愛情ホルモン「オキシトシン」とは？”について掲載します。）。

※子育て支援として、親子ベビーマッサージや、親子触れ合い遊びを実施しています。詳しくは園にお尋ねいただくかホームページをご覧下さい。